



七松小学校 学校だより

令和6年度
1月号
尼崎市立七松小学校
校長 中島 賀子

☆ ホームページアドレス <http://www.ama-net.ed.jp/school/E31/>



あけましておめでとうございます



保護者や地域の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、本校教育に多大なご支援を賜り心より感謝申し上げますとともに、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年のお正月は、比較的、穏やかな天候できもちよく過ごすことができたのではと思っています。しかし、12月中旬ごろから流行期に入ったインフルエンザが猛威をふるい、年末・年始はインフルエンザのニュースを毎日のように聞いていました。寒くて乾燥するこの季節、他のさまざまな感染症にもじゅうぶん気をつけていきたいです。

冬休みを終えて、子どもたちが学校に戻ってきました。冬休みの子どもたちの活躍ぶりはいかがだったでしょうか。登校してきた子どもたちの表情を見ると、きっとみんながんばってくれたのだろうと推察しています。

さて、今年、阪神・淡路大震災から30年を迎えます。私も震災を経験した一人です。私は当時、育児休業中でした。家族はみんな寝ていたのですが、突然の揺れに驚き、おもしろく、こどもに覆いかぶさりました。家が潰れてしまうのではないかとと思うほど揺れました。テーブルやテレビ、食器棚等が倒れ、たくさんの食器が割れました。ライフラインはすべて止まってしまいました。明るくなり、スリッパをはき、部屋の片づけをしました。電気は比較的すぐに復旧しました。テレビをつけると、阪神高速が倒れていたり各地で火災が起こっていたりして、信じられないきもちでした。私の住んでいる伊丹市でも、駅が崩壊し、1階にあったタミータウンが潰れていました。私がこどもたちを連れて、毎日、買い物に行っていた場所でした。これが早朝でなければと思うと恐ろしくなりました。そこで初めて、この震災を自分事として捉えました。うちの近所は、水道がなかなか復旧せず、本当に不自由な生活を送りました。そして、何よりも怖かったのは、余震でした。常に揺れているように感じました。また、大きな地震が来るのではないかと、精神的にもまいりました。30年が経過して、震災を経験していない人が増えていますが、震災の経験と教訓をしっかりと次の世代に伝え、今後30年以内に70~80%の確率で起こるといわれている南海トラフ巨大地震に自分事として備えていかなければと思っています。

さあ、3学期のいいスタートを切り、年度末を迎えられるよう教職員一同、精一杯がんばりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。